













### まとめと今後の課題

本研究では、遺伝子損傷性や神経毒性が懸念されているPFCsを対象に、琵琶湖・淀川流域の水・大気・土壌における挙動を調査し、2015年11月における発生源と負荷量の推定を行った。

	PFHxA	PFOA	PFOS	PFC-FPs
N処理場	2,623	4	2	13
宇治川上流	136	128	18	407
木津川上流	53	36	4	200
桂川上流	1,259	232	55	832
K処理場	221	1,238	95	1,360

2004年からの継続調査と比較し、発生源に関する考察を進めた。

企業や規制の動向に伴い、発生源、負荷量が変化している。

### 謝辞

本研究は、琵琶湖・淀川水質保全機構さまからの援助を受けました。

採水や流量情報の御提供などについて、下水処理場、河川事務所のみなさまから協力を受けました。

現地での調査サポートに関して、帝人エコサイエンス株式会社の協力を受けました。

採水、流量観測、化学物質濃度測定を京都大学の鈴木裕識特定助教、大学院生のKhaoさん、Zengさん、雪岡聖さん、北尾亮太さんの協力を受けました。

ここに記し、御礼申し上げます。